

# H29 町内「子どもの生活・意識アンケート」



1 実施主体 富士河口湖町立教育センター

2 実施対象 富士河口湖町の小中学生

回答数

小学校3年生 223名 小学校5年生 238名

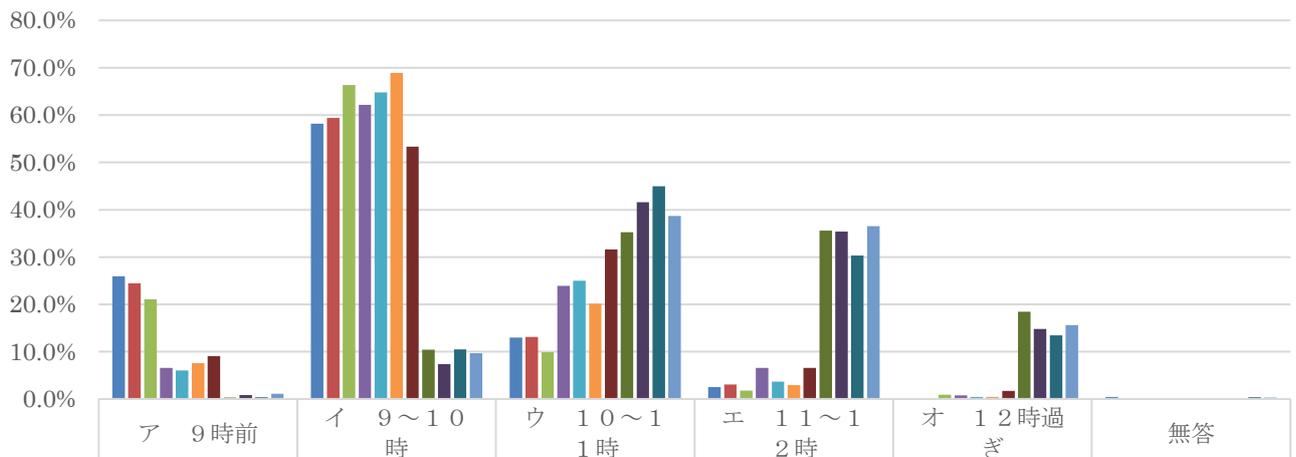
中学校2年生 267名

**計728名**

3 実施時期 平成29年6～7月

参考 ・平成23年度、平成28年度は、これまで教育センターで行ったもの  
・県のは平成28年度11月に山梨県教育研究所から出されたもの

問1 平日、夜ねるのは何時ごろですか。



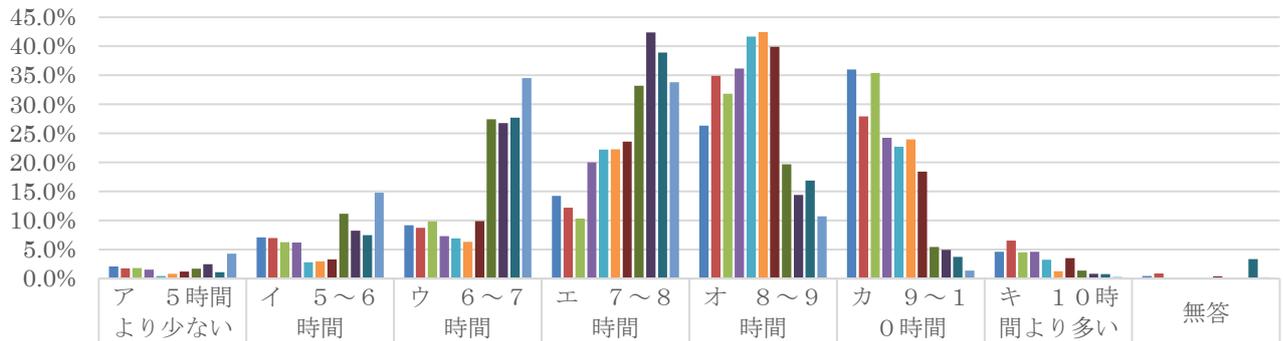
<小学生>

- 小学生の就寝時刻の最も多いのは9時から10時で、約7割近くを占める。
- 小学生は11時までに約98%が就寝している。
- H23年からH29年まで、全体の傾向的には小学生はほとんど変化がない。
- 町と県の小5を比較すると若干町の小学生の方が、就寝時刻が早い傾向にある。
  - ・9時前は県の方が若干多いが、9～10時では町の小5が15ポイント高く、その分10時以降ではいずれの時間帯でも町の小学生の割合が低い。
- 小3より小5の方が就寝時刻が遅くなっている。中学生になるとさらにその傾向が強くなる。
  - ・9時前の割合は、小3が21.1%、小5が7.6%、中2が0.4%で、10時以降の割合は、小3が12.6%、小5が23.5%、中2が88.7%となっている。

<中学生>

- 中学生の就寝時刻の最も多いのは10時から11時で、約45%を占める。
- 中学生は12時までに約85%が就寝している。
- 中学生の約15%の就寝時刻が12時を過ぎている。
- 中学生の方が、小学生に比べて明らかに就寝時刻が遅い。
- 町の中2について、H23年、H28年に比べてH29年は11時以降の就寝時刻の割合が減っている。
- 県のH28年の中2と町のH29年の中2を比べると、だいたい同じような傾向だが、10～11時で町の方が6ポイント高く、11～12時で逆に6ポイント低くなっている。

問2 平日、すいみん時間はどれくらいですか。



	ア 5時間より少ない	イ 5～6時間	ウ 6～7時間	エ 7～8時間	オ 8～9時間	カ 9～10時間	キ 10時間より多い	無答
■ H23町小3	2.1%	7.1%	9.2%	14.2%	26.4%	36.0%	4.6%	0.4%
■ H28町小3	1.7%	7.0%	8.7%	12.2%	34.9%	27.9%	6.6%	0.9%
■ H29町小3	1.8%	6.3%	9.9%	10.3%	31.8%	35.4%	4.5%	0.0%
■ H23町小5	1.5%	6.2%	7.3%	20.0%	36.2%	24.2%	4.6%	0.0%
■ H28町小5	0.5%	2.8%	6.9%	22.2%	41.7%	22.7%	3.2%	0.0%
■ H29町小5	0.8%	2.9%	6.3%	22.3%	42.4%	23.9%	1.3%	0.0%
■ H28県小5	1.2%	3.3%	9.9%	23.6%	39.9%	18.4%	3.5%	0.4%
■ H23町中2	1.7%	11.2%	27.5%	33.2%	19.7%	5.4%	1.4%	0.0%
■ H28町中2	2.5%	8.2%	26.7%	42.4%	14.4%	4.9%	0.8%	0.0%
■ H29町中2	1.1%	7.5%	27.7%	39.0%	16.9%	3.7%	0.7%	3.4%
■ H28県中2	4.3%	14.8%	34.5%	33.8%	10.7%	1.4%	0.3%	0.2%

<小3>

- 睡眠時間の一番多い時間帯は9～10時間で約35%であり、次いで多い8～9時間を合わせると約7割となる。
- H23年、H28年、H29年と連続で減少もしくは増加を示しているのは、「5～6時間」と「7～8時間」の2つの時間帯のみで、いずれも減少している。

<小5>

- 睡眠時間の一番多い時間帯は8～9時間で40%を超え、次いで多い9～10時間と合わせるとほぼ65%となる。
- H23年、H28年、H29年と連続で割合が減少しているのは「10時間より多い」のみ。
- 県の小5と町の小5を比較すると、7～8時間以下の各時間帯の割合がいずれも町の方が低く、町の子どもたちの方が、睡眠時間が長い傾向がある。

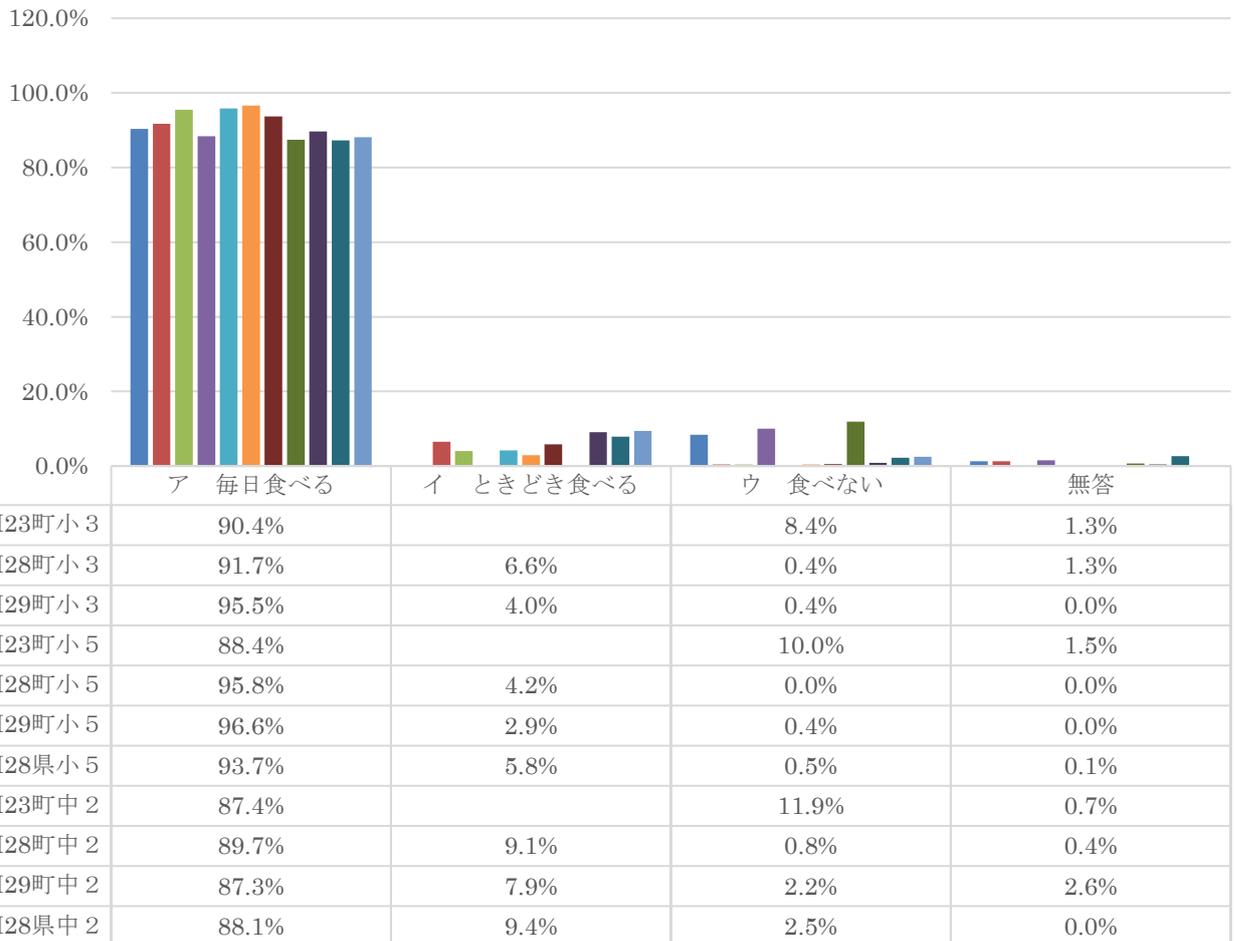
<中2>

- 睡眠時間の一番多い時間帯は7～8時間で約40%、次いで多い6～7時間と合わせると7割近くとなる。
- H23年からH29年までを比較すると、睡眠時間の9時間以上の比較的長い各時間帯での割合が減少している。
- 県と町を比較すると、6～7時間帯以下の各時間帯でいずれも町の子どもたちの割合が低く、町の子どもたちの方が県に比べて睡眠時間の長い子どもたちの割合が多い。

<全体>

- 学年が上がるにつれ睡眠時間は短くなる傾向にある。
  - ・学年が上がるにつれ、一番割合の多い時間帯が一つずつ、時間が短い時間帯にずれている。
  - ・8時間以上の割合が、小3で71.7%、小5で67.7%、中2で21.3と学年が上がるにつれて減少し、特に小・中の差が激しい。

問3 平日、朝食を食べて学校に行きますか。

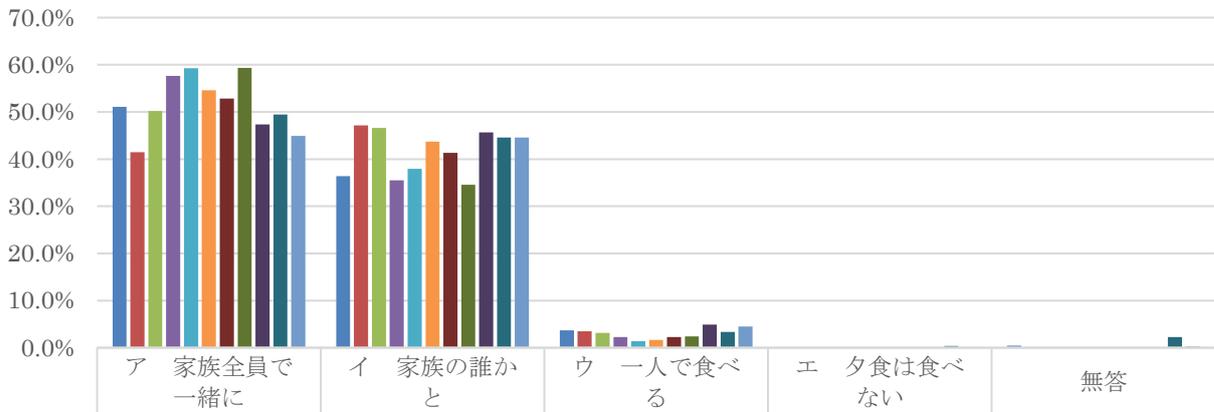


※H23年とH28年以降で問の形が違う。H23年の問は「朝食をとらずに学校に行きますか」で選択肢は「ア はい イ いいえ」。そこで、H23年の「ア はい」をH28年以降の「ウ 食べない」としてカウント、H23年の「イ いいえ」は「ア 毎日食べる」としてカウントした。

<全体>

- 全体的に朝食を食べて学校に行く割合は高く、小学生では95%で、中2でも87%を超えている。
- 朝食をとらずに学校に来ている子どもたちについては、「ときどき食べる」と「食べない」を合わせると、小学生では5%以下、中学生ではほぼ10%となっている。
- 食べない子の割合は少なく、小学生では1%未満、中学生で約2%となっているが、その理由を明らかにしていくことが、子どもたちの置かれている状況の実態把握に繋がると考えられる。
- H28年との比較で、「食べない」と答えた割合が、小3は変わらず、小5と中2では増加している。特に中2では、1%未満(2人)であったものが2%(6人)を超えている。
- 毎日食べる割合が、H23年からH29年までの比較の中で、小学生では増加してきているが、中学生ではそれほど変化していない。

問4 平日、夕食を家族の人と食べていますか。



	ア 家族全員で一緒に	イ 家族の誰かと	ウ 一人で食べる	エ 夕食は食べない	無答
H23町小3	51.0%	36.4%	3.7%		0.4%
H28町小3	41.5%	47.2%	3.5%		0.0%
H29町小3	50.2%	46.6%	3.1%	0.0%	0.0%
H23町小5	57.6%	35.5%	2.3%		0.0%
H28町小5	59.3%	38.0%	1.4%		0.0%
H29町小5	54.6%	43.7%	1.7%	0.0%	0.0%
H28県小5	52.8%	41.3%	2.3%		0.1%
H23町中2	59.3%	34.6%	2.4%		0.0%
H28町中2	47.3%	45.7%	4.9%		0.0%
H29町中2	49.4%	44.6%	3.4%	0.4%	2.2%
H28県中2	44.9%	44.6%	4.5%		0.3%

※平成 28 年度までの調査の選択肢は「ア 家族全員で一緒に食べている イ 全員ではないが、家族の誰かと一緒に食べることが多い ウ あまり家族の人と一緒に食べないが、一緒に食べる時は全員そろふ エ あまり家族の人と一緒に食べていないし、家族全員そろふことはあまりない オ 一緒に食べていない」。今年度の選択肢と比較するために、平成 28 年度までの「エ・オ」の選択肢の割合を合わせたものを今年度の選択肢の「ウ」の割合とした。なお、平成 28 年度までの「ウ」の選択肢については今年度の選択肢の割合に含めていない。

<全体>

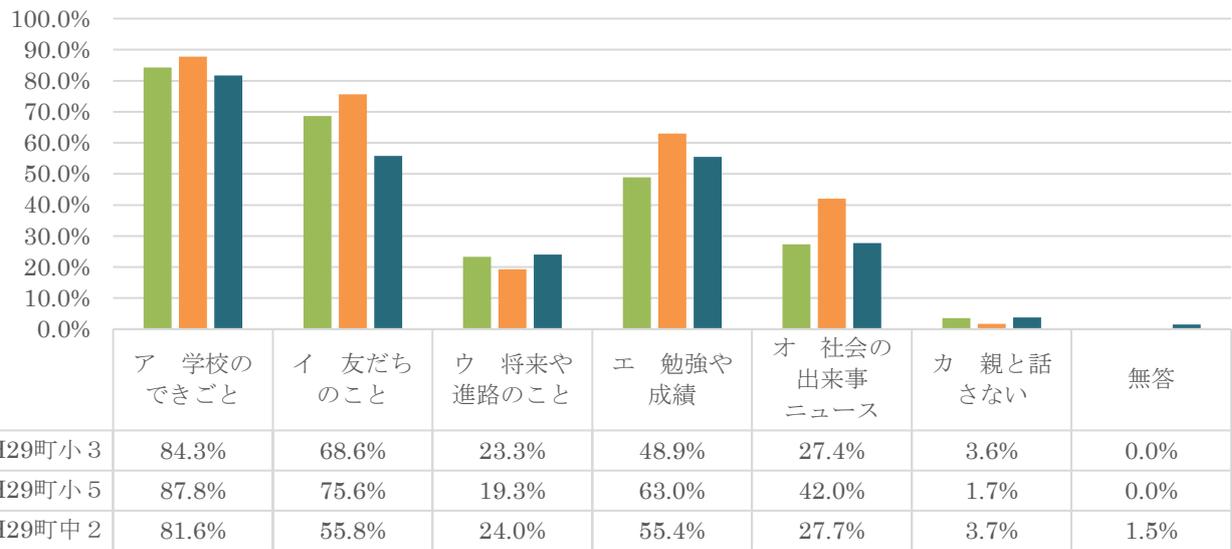
○いつも家族の誰かと一緒に食事をとっている子どもたち（アとイの合計）が、小3で 96.8%、小5で 98.3%、中2で 94.0%となっている。

○いつも家族と一緒に食べているわけではない子どもたち（ウ、エの合計）が、小3で 3.1%、小5で 1.7%、中2で 3.8%となっている。

○家族全員で一緒に食べている割合がいずれの学年とも 50%前後となっている。

○一人で食べている生徒は、いずれの学年でも 3%台以下であるが、その理由を明らかにしていくことが、子どもたちの置かれている状況の実態把握に繋がると考えられる。

問5 親とどんなことについて話しますか。ふだん話す内容を全て選びなさい。



※平成28年度までは、選択肢のア～オの項目それぞれについて、個々に「よく話す、ときどき話す、話さない」という選択肢で質問していた。

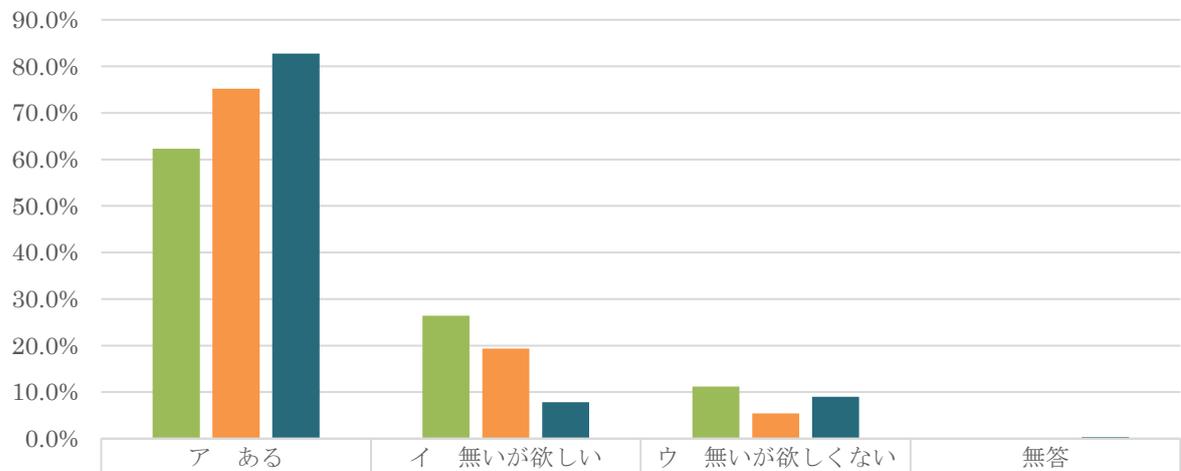
前回の調査の抜粋を以下記す。

- ・学校のできごとについては、それぞれの学年で90%以上（「よく話す」と「ときどき話す」を足した割合）の子どもたちが親と話をしている。
- ・友だちについても、多くの子どもたちが親と話をしており、小3で94.8%、小5で96.3%、中2で87.2%（「よく話す」と「ときどき話す」を足した割合）となっている。
- ・将来や進路について親と話をする子どもたちは、小3で75.1%、小5で74.1%、中2で71.6%でほぼ4分の3の子どもたちが親と話をしている。
- ・勉強や成績について、多くの子どもたちが親と話をしており、小3で89.1%、小5で84.8%、中2で89.3%（「よく話す」と「ときどき話す」を足した割合）となっている。
- ・どの学年も、社会の出来事やニュースについて話す（「ア よく話す」と「イ ときどき話す」の合計）が7割を超え、小学生では8割に近い。

<全体>

- 5つの項目を比較すると、いずれの学年も一番多いのが「学校のできごと」、次が「友だちのこと」、以下「勉強や成績」、「社会の出来事やニュース」、「将来や進路のこと」の順になる。
- 学校のできごとは、いずれの学年も80%を超えている。
- 友だちのことは、いずれの学年も50%を超えているが、小学生では70%前後に対して中学生では55%と、小中の差が見られる。
- 将来や進路のことは、各学年とも20%前後の割合となっている。
- 勉強や成績は小3と中2で50%前後、小5で60%を超えている。
- 社会の出来事・ニュースは、小3と中2で27%、小5では42%となっており、小5が極端に多くなっている。
- 5つの項目中4つの項目で、小5の割合が最も多く、中2の割合が最も少ない。そうでない1つの項目は、将来や進路のことで、逆に中2の割合が最も多く、小5の割合が最も少ない。
- 親と話さないという割合が、小3で3.6%、小5で1.7%、中2で3.7%となっている。その理由を明らかにしていくことが、子どもたちの置かれている状況の実態把握に繋がると考えられる。

問6 自分が使うことのできる「インターネットにつながるパソコンやタブレット」がありますか。

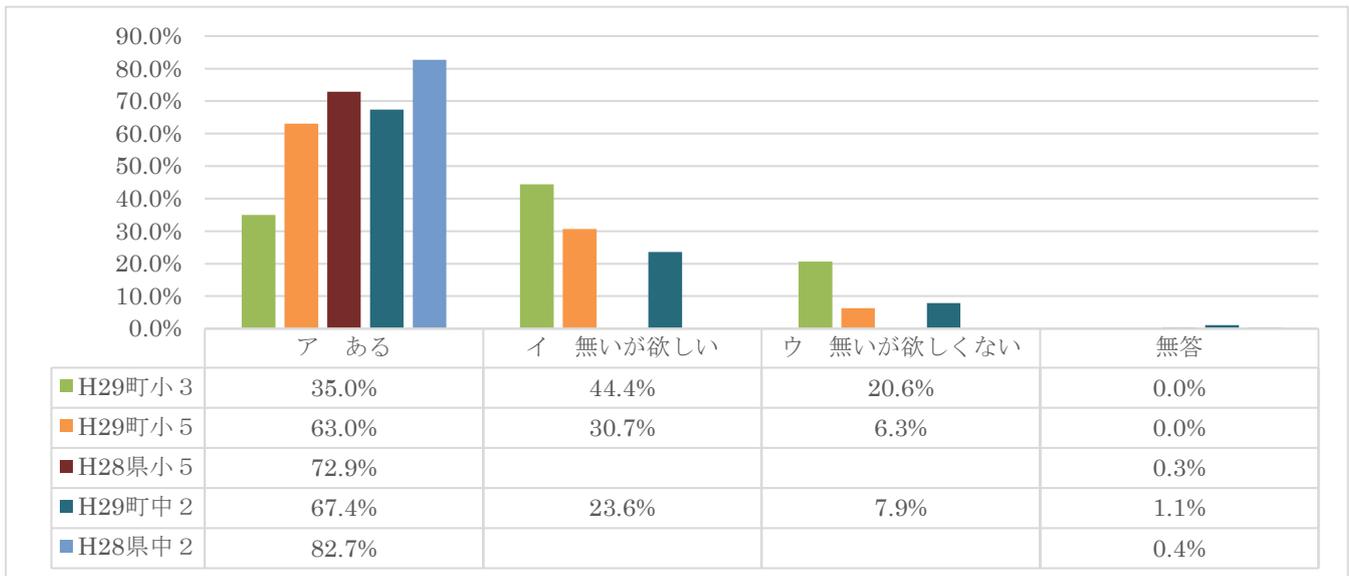


	ア ある	イ 無いが欲しい	ウ 無いが欲しくない	無答
■ H29町小3	62.3%	26.5%	11.2%	0.0%
■ H29町小5	75.2%	19.3%	5.5%	0.0%
■ H29町中2	82.8%	7.9%	9.0%	0.4%

#### <全体>

- 「ある」の割合は、小3で6割を超え、小5で7割、中2で8割を超えており、学年が上がるに従い増加している。
- 「無いが欲しくない子どもたち」の割合をみると、ある無いに関わらず、9割の子どもたちは自分が使うことのできるインターネットにつながっているパソコンやタブレットを持っているか、欲しがっていることがわかる。(アとイを足した割合は、小3で88.8%、小5で94.5%、中2で90.7%)
- 小3で6割、小5で7割、中2で8割を超える児童生徒が、インターネットを利用できる環境にあることがわかる。ただし、ここでは、個人の所有について聞いてはいない。利用方法という点では、その所有形態も関係してくると思われる。

問7 自分が使うことのできる「携帯電話やスマートフォン」がありますか。

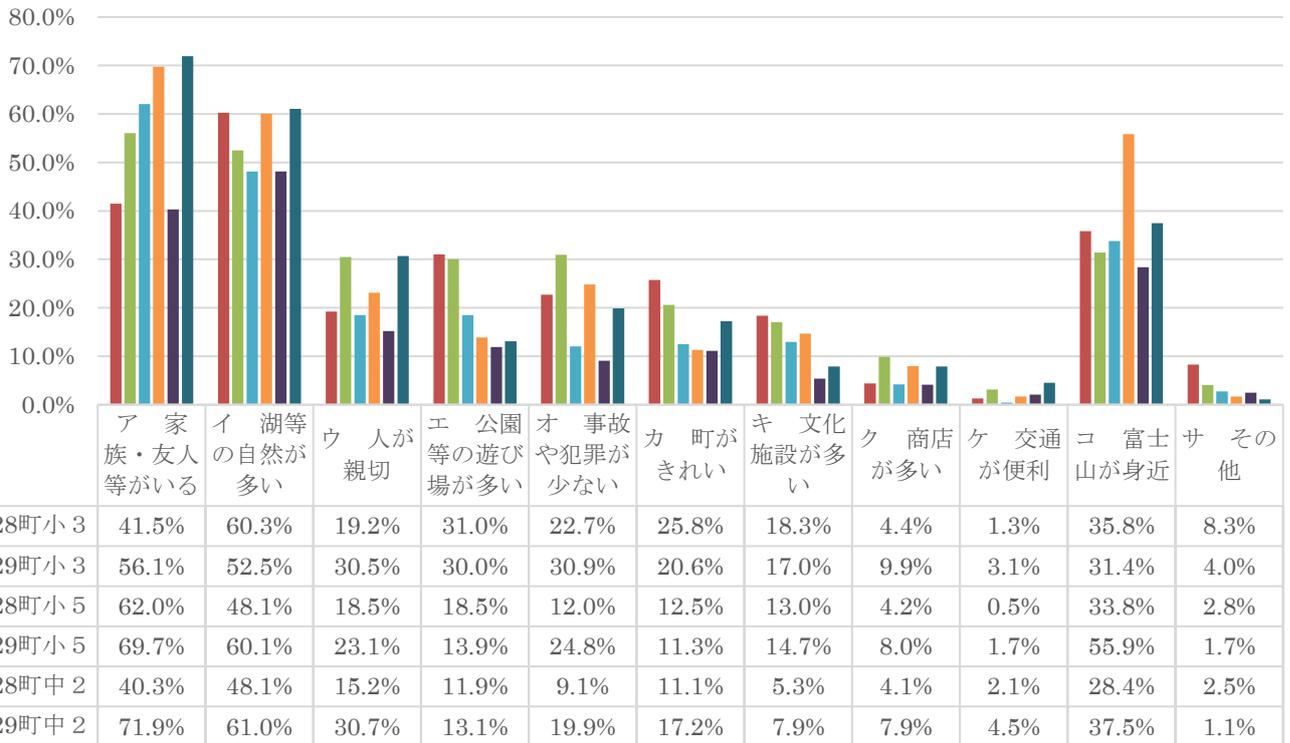


※平成28年の県の調査での質問は、「自由に使える携帯電話・SNS通信可能機器を持っていますか？」で、選択肢は、「はい、いいえ」となっている。そこで、「はい」の割合を「ア ある」の割合とした。「いいえ」については、本調査の「イ 無いが欲しい」「ウ 無いが欲しくない」の区分がなかったので、入れてはいない。

<全体>

- 「ある」の割合は、小3で3割を超え、小5で6割、中2で7割近くになっており、学年が上がるに従って増加している。
- 無くて欲しくない子どもたちの割合をみると、ある無いに関わらず、小3で8割、小5と中2で9割の子どもたちが欲しがっていることがわかる。(アとイを足した割合は、小3で79.4%、小5で93.7%、中2で91.0%)
- 小3で3割、小5で6割、中2で7割近くの児童生徒が、携帯やスマートフォンを利用できる環境にあることがわかる。
- この表にないのだが、県の調査で、「ある」の回答が、平成27年度の小5が44.3%であったものが平成28年度では72.9%に、中2では平成27年度70.0%だったものが、平成28年度には82.7%と1年間で急激に伸びている。この結果をみると、今後町でも大幅に伸びていくことが予想される。

問8 住んでる町や地域で好きなところはどこですか。(3つまで)



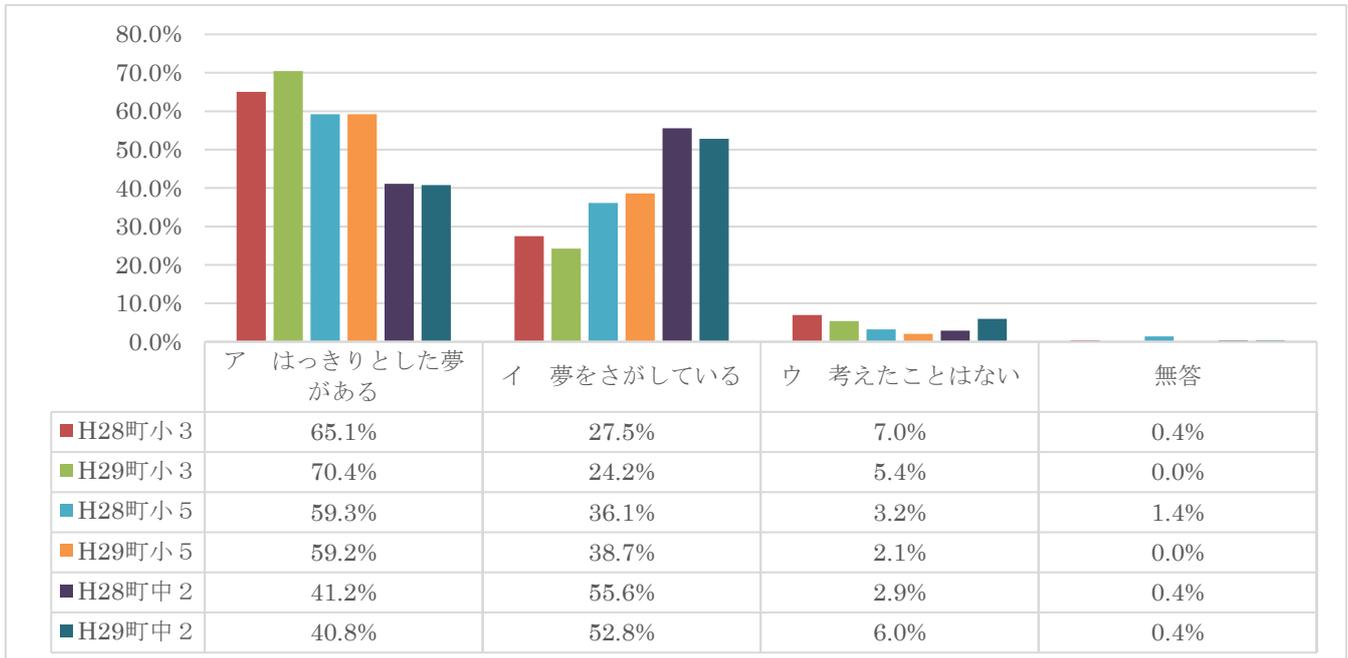
※その他の回答

- ・温泉がある。釣りができる。ごはんが美味しい。・ゲームセンターなど・自分の道に進んでい  
る人が多い・ルールをちゃんと守る人がいるところ (小3)
- ・そんなによくはない。3つはない。・食材がおいしいこと (小5)
- ・ショッピングモールがある。・動物がいっぱいいる (中2)

<全体>

- 好きなところの上位の3つはいずれの学年も同じで、一番多いのが「家族・友人等がいる」で、小3で56.1%、小5で69.7%、中2で71.9%となっている。以下二番目が「湖等の自然が多い」、三番目が「富士山が身近にある」となっている。
- 半数以上があげている項目は、「家族・友人等がいる」、「湖等の自然が多い」で、いずれの学年も50%を超え、小5、中2では60%を超えている。「富士山が身近にある」は小5のみ50%を超えている。
- 3つの学年を比べて、1つの学年だけ特に違いが出ている項目は、「公園等の遊び場が多い」と「富士山が身近にある」で、前者は小3で、後者は小5で特に多くなっている。
- 項目を答えた割合が多い順で見ると、各学年ともほぼ同じ傾向。
- 前年度と比べて、割合の多い項目の上位3つは、多少の順番の変動はあるが同じ。
- 前年度より、回答の割合が増加した項目が多い。その中で、増加の割合の特に顕著なものとして、小3と中2の「家族・友人等がいる」、小5と中2の「湖等の自然が多い」、小3と中2の「人が親切」、小5と中2の「事故や犯罪が少ない」、小5の「富士山が身近にある」があげられる。

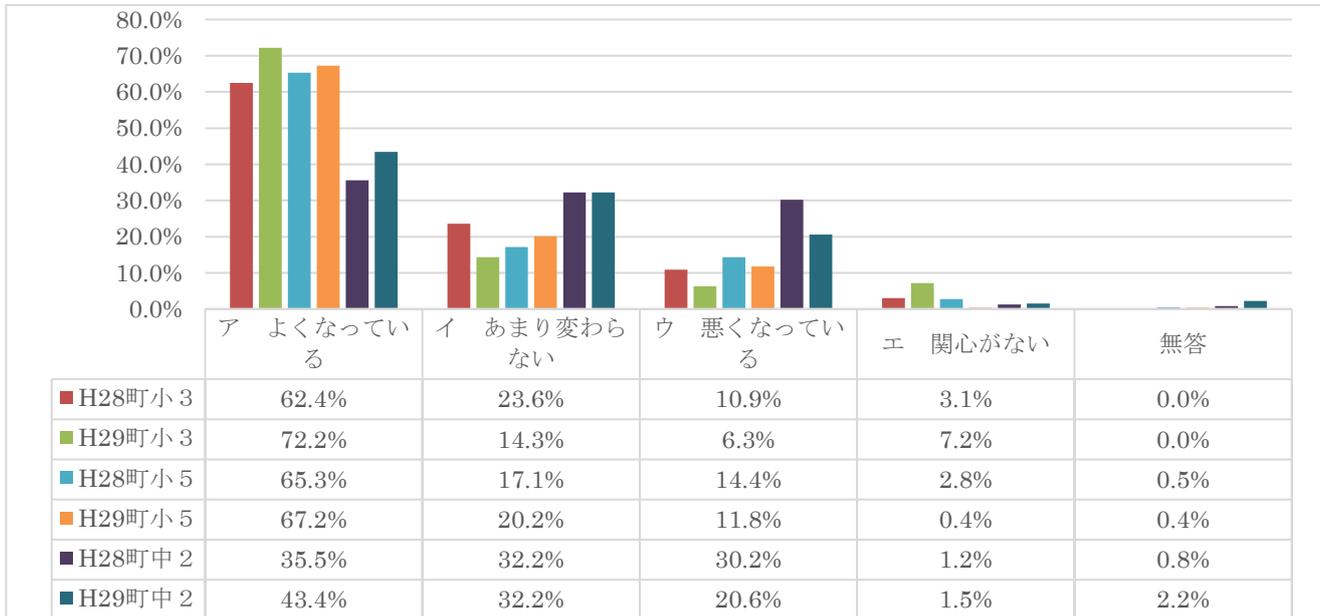
問9 将来の夢を持っていますか。一番近いものを1つ選んでください。



<全体>

- はっきりとした夢がある割合は、小3で7割、小5で6割、中2では4割で、学年が上がるに従って減少している。
- 夢をさがしている割合は、学年が上がるに従って割合が上昇している。小3に対して、小5はおよそ1.5倍、中2の割合は約2倍となっている。
- 考えたことはない割合は、小3で5.4%、小5で半減し、中2で再び増加している。

問 10 大人になったころの世の中はどのようになっていると思いますか。



<全体>

- 小学生と中学生では捉え方に大きな差がある。
- 小学生はよくなっていると考える児童が7割前後に対して、中2は約4割となっている。
- 悪くなっているという答えは、学年を追うごとに増えている。小3で6.3%、小5で11.8%、中2は20.6%となっている。
- 小学生では、「よくなっている」「あまり変わらない」「悪くなっている」の中で「よくなっている」という回答が抜きん出て多い。中2も「よくなっている」の回答が一番多いのだが、小学生ほどの抜きん出た差とはなっていない。
- 昨年度と比べて、「よくなっている」という割合が増え、「悪くなっている」という割合が減っている。特に中2では、「悪くなる」が10ポイント減りその分「よくなっている」が8ポイント増えている。